

- ★ 生育は平年並みからやや早く進む
 ★ 幼穂形成期は、「ふさおとめ」が6月14日頃か
 ら、「ふさこがね」が6月15日頃から

1 君津地域の生育概況

生育は平年並みからやや早く進んでおり、多くのほ場では目標茎数が確保されていますので、中干しを行いましょう。ただし、ワキの発生等により一部のほ場では生育がやや遅れていますので茎数を確認の上、目標茎数が確保されたら中干しを行いましょう（目標茎数は第1報参照）。

また、4月20日植え「ふさおとめ」は6月14日頃から、「ふさこがね」は6月15日頃から幼穂形成期（出穂25日前、幼穂長1mm）に入る見込みです。

2 生育調査ほの調査結果（6月1日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数 (/株)	茎数 (/㎡)	単葉葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	28	4/17	9.4	38	29.1	451.1	44.0
	平年	4/16	9.1	35.5	27.8	416.8	45.9
	平年比	+1	+0.3	107%	105%	108%	96%
ふさこがね (君津市)	28	4/18	8.7	33	31.8	607.4	46.4
	平年	4/19	8.1	30.9	20.8	396.7	44.3
	平年比	-1	+0.6	107%	153%	153%	105%
コシヒカリ (君津市)	28	4/20	8.7	39	25.2	506.5	37.8
	平年	4/20	8.2	36.6	24.8	469.0	42.5
	平年比	±0	+0.5	107%	102%	108%	89%
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	28	4/25	8.2	35	24.9	405.9	42.0
	平年	4/21	7.9	37.9	24.3	428.6	42.1
	平年比	+4	+0.3	92%	102%	95%	100%
コシヒカリ (木更津市)	28	5/1	8.0	37	19.6	326.8	45.7
	昨年	5/8	5.8	31.9	12.1	208.1	36.5
コシヒカリ (君津市)	28	5/1	7.1	32.0	20.8	293.3	42.2

※平年値は過去10か年（2006～2015年）平均値。ただし、①富津市のコシヒカリ一発肥料のほ場は過去9か年（2007～2015年）平均値、②木更津市のほ場は26年から調査を始め、君津市のほ場は28年から調査を始めたため、平年値はなし

-郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。

電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 青木 y.aoki31@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）

3 これからの管理のポイント

① 「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期（出穂 25 日前・幼穂長 1mm）の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測	穂肥適期の目安	冷害危険期予測
ふさおとめ	4月20日	6月14日～	6月14～21日	6月24日～
ふさこがね	4月20日	6月15日～	6月22日	6月25日～

② 「ふさおとめ」「ふさこがね」の穂肥

穂肥の施用適期は、幼穂長で判断されます。生育が適正範囲内であれば、

- ・「ふさおとめ」は幼穂長 1mm～10mm（幼穂形成期～出穂 18 日前）
- ・「ふさこがね」は幼穂長 10mm（出穂 18 日前）

の時にチッソ成分で 3kg/10a を標準に施用します。

生育が過繁茂となっている場合は、施用時期は遅らせずに、量を減らして施用します。穂肥が遅れると玄米に含まれるタンパク質が増えて食味が悪くなる傾向があります。なお、「ふさこがね」の穂肥施用時の適正な葉色は他の品種に比べて濃いのが特徴で、カラスケール等で葉色を確認して、適正な葉色であれば穂肥を基準どおりに施用します。

幼穂形成期の目標とする水稻の姿

品種	草丈 (cm)	茎数※ (本/株)	茎数※ (本/m ²)	群落葉色 ※※
ふさおとめ	55 以下	31～34	570～620	4.0
ふさこがね	60～65 以下	25～27	450～500	5.0
コシヒカリ	70 以下	23～30	430～560	3.5～4.0

※坪 60 株植、※※カラスケール値による。

③ イネクロカメムシの防除

イネクロカメムシは、近年、君津地域全域で発生しており、年々被害地域が拡大しています。普通のカメムシと違って斑点米を作ることはありませんが、水稻の茎を吸汁します。吸汁されると茎数が減少したり、不稔稲が増加したりするほか、白穂の発生原因にもなります。

5月中旬～6月に水田に飛来し、6月下旬には卵を産んで増えます。田の畦際から侵入するので、その周辺の株元を良く見回り、発生が多い場合は早めに防除しましょう。

なお、日中は株元に生息することが多く、薬剤が直接かかりにくいので、稲が薬剤を吸収して効果を発揮するスタークル／アルバリン剤等による防除が効果的です。



写真1 イネクロカメムシ成虫（体長 8～10mm）



写真2 葉における黄白色斑点状食害痕
(農林総合研究センター病理昆虫研究室)

※ 次号は「6月22日頃」発行予定